

建築材料用語事典

工学博士 森 脇 哲 男・清水昭之 共編
田中健治郎・勝田宏治

建築材料用語事典

工学博士 森 脇 哲 男・清水昭之 共編
田中健治郎・勝田宏治

オーム社

は し が き

近年の建築技術の発展にともない、建築材料も、一昔前と較べものにならない程種類が多くなり、使われ方も多様である。建築材料は、建築のどの工程にも関係し、用途も非常に多い。かつ新しい材料の開発もめざましく、そのため、相当の経験を経た建築技術者でさえも初めてその名前をきく材料があることも珍らしくない。その意味で建築材料の用語の膨大さにまず驚かされるのであるが、本書では、できるだけ広く用語を集録する方針とした。

しかし、あまり大部のものになっては実用的ではない。そこで事典の大きさとしては、ハンディタイプとし、時宜に即して用いることができることを目的とした。そのため、用語の解説はつとめて簡潔なものとし、更に詳細な情報を得るためには、その関係の専門書にゆずることとした。

この事典を利用して戴くのは建築材料関係者に限定せず、広く建築関係全般の人々、即ち、設計者、施工関係者、インテリアデザイナー、建材メーカーの営業関係の人から学生の諸君にまでも、容易に理解できるよう解説は平易であることに心掛けた。

以上のことが、この事典の特長といえることであるが、これを実現させるため苦心したことは、編集委員の人選である。

各分野の数多くの専門家による辞典が往々にして陥りやすいのは、用語による解説の精粗の差であり、また、得てして詳細で難解なる解説になり勝ちな点である。

アカデミックな大学では、往々にして現場の知識に欠け、これに対して、実際の建築現場では、まちがって理解されていることも多く、両者のギャップが建築生産上問題になることが多い。協力して戴いた3人はそれ

ぞれ学術的なこと、現場的なこと、また両者の溝を補完することに最適であり、それぞれの役割を果たしながら一致協力した。

本書の編集作業は昭和50年3月に始まり、それ以来、約3年の歳月をかけて完成されたものである。その間一貫して協力してくれたオーム社の方々の恩恵も非常に大きい。感謝にたえない次第である。しかし所詮人間の作製したもの、不十分な点も多いと思われる。

大方の御叱声を得て、今後よりよき事典にして行きたい。

昭和53年1月

編集委員長 森 脇 哲 男

凡 例

1. 用語の見出し

- 見出しの表記法は、日本語、外国語、固有名、略号、記号、数字を問わず、原則として表音式とした。
- 見出しの漢字についてはその読み方を（ ）にひらがなで表記した。
- 見出しに対応する英語を併記した。

2. 見出しの配列

- 日本語、外国語、固有名、略号、記号、数字は原則として五十音順とした。
- アルファベットの読み方は次によった。

エー	ビー	シー	ディー	イー	エフ	ジー	エッチ	アイ	ジェー	ケイ	エール	エム
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
エヌ	オー	ピー	キュー	アール	エス	タイ	ユー	ヴィ	ダブルユー	エフエス	ワイ	ゼット
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z

- 濁音、半濁音は清音と同様に扱った。
- 拗音および促音は順序のうえでは清音と同様に扱った。
- 長音「ー」は順序のうえでは、これを省略した。

3. 用語の解説

- 同一項目で異なる内容を説明する場合は、①、②……と分けて区別した。
- 🔍印は次に示す項目と同義語・参照語であることを示し、その項目には解説を付した。
- 見出しが JIS そのものの表題にあるものは JIS 番号を、また関連 JIS は JIS 番号と（ ）にその表題を表示した。

4. 索 引

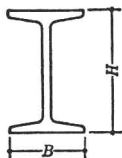
巻末に本文見出しに対応する英語を、アルファベット順に配列した英和索引を載せた。

ア 行

ア

I 形鋼 (あいがたこう)

I section steel I 形の断面を有する形鋼の一種。鉄骨造あるいは鉄骨鉄筋コンクリート造の柱・はり材として用いられる。図中の H は 100~600 mm まで 11



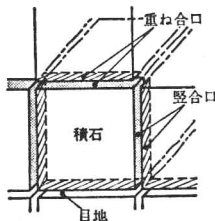
種, B は 75~190 mm まで 7 種ある。
JIS G 3192.

合釘 (あいくぎ)

double pointed nail 切釘(きりくぎ), 貝釘(くれくぎ)ともいう。両端がとがったまっすぐな釘で, 断面の形は円形と角形の 2 種がある。板材などをはぎ合わせるときによく用いられる。金属製のほか, 木製や竹製のものもある。

合口 (あいくち)

abutment joint 合端 (あいば) ともいう。石材同士の接触面。組積造で石と



石とが接してできる空間を目地というが, 図のように目地を構成する石面の小端部分 (通常幅数 cm ほど平滑に仕上げてある) をいい, 立て目地に沿う堅合口, 横目地に沿う重ね合口がある。

アイゾット試験 (—しけん)

Izod impact test アイ衝撃試験 (しょうきしけん)

アイバー

eye bar 生子棒 (なまこぼう) ともいう。鋼棒または鋼板の端部に接合のための円形孔をつけたもの。鉄骨造のブレースやつり材など引張材 (テンションバー) として用いられる。



亜鉛 (あえん)

zinc 化学記号 Zn. 酸化亜鉛の還元により生成される。酸やアルカリに弱い。イオン化傾向が鉄より大きく, 亜鉛鉄板など鉄の防錆被膜材に適する。また融点が高く, やわらかいため铸造性・圧延性にすぐれ, 薄板, 線材, くぎなどに加工されるとともに, 合金としてしんちゅう, ホワイトブロンズ, ホワイトゴールドなどの素材に用いられる。

亜鉛華 (あえんか)

zinc white, flower of zinc 塗料に用いられる顔料の一種。白色粉末。主成分は酸化亜鉛で, 顔料のほかに化粧品, 医薬用としても用いられる。毒性はなく, 被覆力が大きく, 水には溶けない。JIS

K 1410 (酸化亜鉛), JIS K 5102 (顔料).

亜鉛合金 (あえんごうきん)

zinc alloy 亜鉛と錫、アルミニウム、銅などとの合金。ダイカスト用と鋳物用がある。JIS H 2201 (ダイカスト用亜鉛合金塊), JIS H 5301 (亜鉛合金ダイカスト)。

亜鉛合金ダイカスト (あえんごうきん——)

【ア】亜鉛合金 (あえんごうきん)

亜鉛鉄板 (あえんてつばん)

galvanized steel sheets トタン板ともいう。鋼板に亜鉛めっき (通常は熔融亜鉛めっき) したものの。耐久性にすぐれ、屋根ぶき材など外装材に用いられる。平板、波板、コイルの3種がある。JIS G 3302。

亜鉛板 (あえんばん)

zinc plate 「あえんいた」ともいう。亜鉛を圧延し、板状にしたもの。建築用には屋根ぶき板、壁板などに使用されている。平板、凹板、凸板の別がある。JIS H 4321。

亜鉛引鉄板 (あえんびきてつばん)

galvanized sheet iron 亜鉛鉄板、亜鉛めっき鉄板、トタン、トタン板、亜鉛めっき鋼板ともいう。亜鉛をめっきした鉄板。耐久性にすぐれ、屋根ぶき材料・外壁材料としてよく用いられる。JIS G 3302 (亜鉛鉄板)。

亜鉛末錆止めペイント (あえんまつさびど——)

zinc dust anticorrosive paint 鉄鋼類の錆止め用塗料の一種。乾性油またはワニスに亜鉛粉末、亜鉛華、その他の顔料を混練した塗料。他に亜鉛粉末などを塗布直前に塗料に混ぜて使用するものもある。JIS K 5626。

亜鉛鍍金 (あえんめっき)

galvanizing, zincing 鉄鋼類の防食を目的として表面に亜鉛の被膜をつくること。電気鍍金法と熔融鍍金法とがある。JIS H 8610 (電気亜鉛めっき), JIS

H 8641 (熔融亜鉛めっき)。

亜鉛鍍金鋼線 (あえんめっきこうよりせん)

galvanized steel wire strands 数本から十数本の亜鉛鍍金鋼線を撚り合わせて1本の鋼線としたもの。一般の鋼線より耐久性が著しく良いため、ちょう架線、ケーブル用支持線などに用いられる。JIS G 3537。

亜鉛鍍金鉄線 (あえんめっきてっせん)

galvanized iron wire 防錆の目的で表面に亜鉛鍍金を施した鉄線。

亜鉛鍍金鉄線クリップ金網 (あえんめっきてっせん——かなあみ)

【ア】クリップ金網 (——かなあみ)

亜鉛鍍金鉄線 (あえんめっきてつよりせん)

galvanized iron wire strands 数本(3~7本)の亜鉛鍍金鉄線を撚り合わせて1本の鉄線としたもの。電力用、通信用の架空地線や埋設地線などに用いられる。JIS G 3534。

青石 (あおいし)

①青色を示す岩石。石質は凝灰岩、安山岩、緑泥片岩、砂岩、など種々ある。また産出される地方によって秩父青石、伊勢青石、伊予青石などの呼称がある。装飾用として使われることが多い。②風雨にさらされず、風化していない岩石のこと。③【ア】栗石 (くりいし)

青目 (あおも)

大谷石のうち採石場において、最下層から産出するもの。暗青味がある。

赤 (あか)

red ①色相の一種。②銅のこと。③木の心材。

赤樫 (あかがし)

red oak 広葉樹の一種で樫属。材質は硬く強靱で、構造用材に適する。気乾比重は約0.9、色は淡褐または淡紅褐色。

赤瓦 (あかがわら)

red roof tile ①素焼瓦の一種。低級粘土を原料とし、焼成によって粘土中の鉄

分が酸化し赤色を呈する。②釉薬に赤色のものを用いた瓦。島根県石見地方で初めて用いられた。③その他赤色のセメント瓦など、赤色の瓦の総称。

赤腐れ (あかぐさ—)

brown rot, red rot 木材の腐朽状態を示す語。木材が腐朽してその後期になるとセルロースが分解し、赤茶色のリグニン質が多く残るようになり、全体として腐朽箇所が赤色を呈するため、赤腐れという。

赤錆 (あかさび)

rust 酸化第二鉄。鉄のさびへの変化においてまず水酸化第一鉄ができ、さらに酸化作用において水酸化第二鉄となり赤錆が生ずる。

赤杉 (あかさぎ)

redwood 針葉樹の一種。通直、長大木で高さ70~80m、直径2~3mになるものも多い。辺材は淡白黄色、心材は淡紅色を呈し、軽量(気乾比重約0.4)、加工性、割裂性、耐久性(水湿に耐える)に富む。建築用上質内装材、屋根材に用いられる。

赤苳 (あかさす)

苳の一種。ジュート麻の廃品を切断して苳としたもの。

赤土 (あかつち)

tuff loam 日本壁に用いられる壁土の一種。京都市伏見付近に産する良質の上塗用色土で赤茶色を呈している。

赤パテ (あか—)

red putty ①特殊ガラスの取付けを目的とした防水、防錆用パテの一種。通常のパテにべんがらを少量混練したもので赤色。②鉄管の接続箇所の充填のためのべんがら入り塗料。

赤間石 (あかまいし)

山口県厚狭郡から産する赤褐色・紫青色の輝緑凝灰岩。硯材に使用される。

赤松 (あかまつ)

Japanese red pine 針葉樹の一種。北海道を除く日本各地に産する。辺材は淡

黄白、心材は黄褐色を呈し、気乾比重0.5~0.6で緻密、弾力性、靱性、脂気、加工性に富む。また心材は水湿に強く、最も一般的建築用木材で、床組、小屋組、かもし、敷居、たる木、基礎くい、床柱など使用される範囲は広い。

赤身材 (あかみざい)

heart wood 赤味材とも書く。木の心材。

赤ラワン (あか—)

red lauan フィリピンなど東南アジアの熱帯地方に産するラワンの一種。通常ラワンといえばこの赤ラワンを指す。材質は樺(けやき)、チークに近いが、やや軽く(気乾比重0.6~0.7)、木肌は粗い。造作材、家具装飾材、合板などに多用される。

赤煉瓦 (あかれんが)

red brick 普通煉瓦の一種。並焼きともいう。焼成時に酸化炎によって材料内部に不純物として混入している鉄分が酸化し、製品が赤褐色を呈する煉瓦。

亜共析鋼 (あきょうせきこう)

鋼の標準組織の成分(フェライト、セメントライト、パーライトの3成分)のうち、フェライトとパーライトの2成分から成る炭素鋼。炭素量は0.85%以下。通常構造用に供される鋼材は、この亜共析鋼の一種で、炭素量を約0.15~0.28%としたもの。

アクスター塗 (—ぬり)

室内の壁、天井の保温、保冷、防音を目的とした粗面仕上工法の一つ。材料の成分は抗火石90%、ドロマイトプラスター5%、雲母粉5%、白セメント若干。

アクメックス床材 (—ゆかざい)

エポキシ系樹脂にて塗り、はけ塗床材で商品名。彩色自由ではなく離れに対する抵抗性が大きく、耐摩耗性にすぐれる。

アーク溶接 (—ようせつ)

arc welding 電気溶接の一種。電弧溶接ともいう。二電極間あるいは電極と母材間に高圧電流を流すことにより、ア

クを発生させ、この熱を利用して溶接する方法。電極自体が熔融して接合する消耗式と、電極は熔融せず別の溶加材を熔融して接合する非消耗式とがある。

アクリル系繊維（——けいせんい）

acrylic fiber 商品名でオーロン、カネロン、ボンネル、エクスラン、カシミアなどがある。多くはポリアクリルニトリル系であるが100%ポリアクリルのものもある。重さはポリエステルと羊毛の中間。湿強度が強く、弾性がある。ポリアクリルニトリル系のものは難燃性、耐薬品性があり、化学工場建設などに用いられる。

アクリルゴム

acrylic rubber ビニル系ゴムの一種。アクリル酸の各種アルキルエステルのゴム重合体が主原料となる合成ゴム。シリコンゴムに次ぐ耐熱材料であり、耐熱性、耐油性、耐候性、耐オゾン性にすぐれる。

アクリル酸樹脂（——さんじゅし）

acrylic acid resin アクリル樹脂（——じゅし）

アクリル樹脂（——じゅし）

acrylic resin アクリル酸樹脂ともいう。主成分はアクリル酸あるいはメタアクリル酸の誘導体（アクリル酸メチル、メタアクリル酸メチルなど）の重合物。狭義には前者のみをアクリル樹脂、後者はメタアクリル樹脂という。アクリル酸メチルは塗料、接着剤の原料に、メタアクリル酸メチルは有機ガラスの原料として用いられる。耐水性、耐酸性、耐アルカリ性、耐油性にすぐれ、無色透明な熱可塑性合成樹脂。

アクリル樹脂接着剤（——じゅしせつちやくざい）

acrylic resin adhesives アクリル樹脂を主原料とした接着剤。ポリアクリル酸またはそれに硝化綿などを加えて接着剤として使用される。安定性があり透明。

アクリル板（——ばん）

acrylic board アクリル樹脂板ともいう。メチルメタクリル樹脂。衝撃力に強く、耐酸、耐アルカリにすぐれた性質を持つ。しかし熱に弱く、また多くの有機溶剤に溶ける。透明、半透明、不透明のものがあり、ガラスに代わって採光板、照明器具などに用いられる。

上げ落し金物（あ——おと——かなもの）

bolt, flush bolt, barrel bolt 揚卸し金物（あげおろしかなもの）ともいう。扉や開き窓の片方を閉じ固定する場合に、上下2箇所に突き出せるようにしたボルト。フランス落し、南京（なんぎん）落し、クレモンボルトなど形式により数種がある。

麻（あさ）

hemp 桑科の1年生植物。大麻、マニラ麻などある。麻の茎の表皮内側を繊維として織物、ロープなどをつくる。強度は大きい伸びや柔軟性に乏しく、しわになりやすい。壁装材やじゅうたんのフェルト、ルーフィングの心材、すきなどに用いられる。また実からは麻実油がつくれ塗料に用いられる。JIS L 2701（麻ロープ）。

麻織物（あさおりもの）

hemp fabrics 麻を原料とした織物。麻には大麻、マニラ麻、ラミー（苧麻）、リネン（亜麻）の種類があり、ラミーを使用したものは水に強く、有機天然繊維中では最強である。水分の吸収、乾燥が早い。またリネンでは吸水が少なく、ホース、天幕などに適する。JIS L 1001（麻織物試験方法）。

浅黄漆喰（あさぎしっくい）

淡青緑色に着色した漆喰。顔料は灰墨と群青を用いる。壁の上塗に用いられる。

浅黄土（あさぎつち）

日本壁の上塗に用いられる粘土質の色土の一種。淡灰緑色を呈している。有名なものに京都市伏見で産する大亀谷土、他には明石浅黄土、淡路浅黄土がある。

麻苧 (あさすさ)

hemp fiber 塗壁用の麻の苧。麻のくずを洗い使用した苧で、しっくい壁、日本壁の上塗材料に混じて使用する。浜苧(大麻)、白毛苧(マニラ麻)、南京苧(黄麻、苧麻)などがある。

アサノライト

商品名。人工軽量骨材の一種。

朝日プロベスト (あさひー)

商品名。開綿された石綿繊維と無機質の結合剤とを基材とする吹付左官材。吸音率大、断熱性に富む。結露防止に有効。

浅間軽石骨材 (あさまかるいしこつざい)

Asama light weight aggregate 浅間山麓に礫状で堆積している軟質の天然軽量骨材。石英粗面岩が主体となっている。淡色で軽く粒形がよい。人工軽量骨材が多く用いられるまでは、代表的な構造用軽量コンクリート骨材であった。絶対比重は粗骨材で0.9~1.0、細骨材で1.5~1.7程度。

アジテータートラック

agitator truck トラックミキサーの一種。生コン車ともいう。コンクリートが運搬中に分離しないように攪拌できる運搬槽を備えている。レディミクストコンクリートを運搬するトラック。

足場 (あしば)

scaffold 足代 (あじろ、あししろ)、足代組みともいう。高所における作業のために設けられる仮設構造物。材料により丸太足場、単管足場、わく組足場がある。設置場所により外部足場、内部足場に分けられ、また構造物や用途によっても分けられる。JIS A 8951(鋼管足場)。

足場板 (あしばいた)

scaffolding board 足場の通路や作業床に用いる厚板材。一般には幅20cm以上、厚さ3.5cm以上、長さ3.6m以上とする。

足場クランプ (あしばー)

scaffold clamp 緊結金具ともいう。鋼管足場の組立に用いる結合金物。足場の

縦横材の交差部分に用い、直角に保つ固定クランプや角度を調整できる自在クランプがある。

足場丸太 (あしばまるた)

scaffolding log 足場に用いる丸太。一般には杉が用いられる。皮を完全にはぎ取り、目通り105mm以上、長さ10~12m程度の通りのよい丸太を用いる。

アスファルト

asphalt 原油を天然または人工に蒸発させて残った暗褐色ないし黒色の固体または半固体の瀝(れき)青物質。主として炭化水素とそれらの誘導体より成る。天然に産したものを天然アスファルト、人工に産するものを人工アスファルトまたは石油アスファルトと呼ぶ。天然アスファルトはわが国では産せず、硬軟の範囲は石油アスファルトよりいっそう広い。また不純物を含むことも多い。石油・アスファルトは天然アスファルトに勝り、ストレートアスファルトとブローンアスファルトに分けられる。道路工事、防水工事、アスファルト製品に用いられる。JIS A 6011(防水工事用アスファルト)、JIS K 2207(石油系アスファルト)。

アスファルトコーティング

asphalt coating ブローンアスファルトを揮発性溶剤(ソルベントナフサなど)に溶かし、石綿、雲母などを混入した粘度の高い塗膜防水剤の一種。屋根面、壁面の防水および保護、接合部などの充填材に用いられる。

アスファルトコンクリート

asphalt concrete ストレートコンクリートまたはブローンアスファルトと骨材との混合物で、加熱して混ぜる。床、道路などに敷き転圧して仕上げる。

アスファルトコンパウンド

asphalt compound ブローンアスファルトに動植物油を混ぜ、耐候性を改善し軟火点を上昇させ、弾性、接着性を増加させたもの。主にアスファルト防水層に

用いられる。

アスファルトセメント

asphalt cement 純粋なアスファルトを加熱して使いやすい軟度としたもの。またはアスファルトに樹脂、ゴムなどを加え溶剤で溶かしたもの。結合剤、接着剤として用いられる。

アスファルトタイル

asphalt tile アスファルトに油脂類、石綿、鉱物質細粉、顔料を加え加熱混合してシート状に圧延し切断したもの。暗色系と明色系があり、床材として広く用いられる。

アスファルト調合剤(——ちょうごうざい)

asphalt mixing matter アスファルトを溶剤に溶かし乳液状にしたものの総称。アスファルトプライマー、アスファルトコーティング、アスファルト乳剤などがある。

アスファルト乳剤(——にゅうざい)

asphalt emulsion アルカリなどの乳化剤によって水中にアスファルトを分散させたもの。茶褐色を呈しており、防水層、簡易舗装に用いられる。

アスファルトフェルト

saturated bitumen felt, (米) asphalt-saturated felt 単にフェルトともいう。動植物性繊維を原料とし、すいた厚紙に軟らかいストレートアスファルトを浸透させたもの。防水層の張合せ、屋根・壁下地の防水、床材料の下敷、パッキングなどに使用される。JIS A 6005。

アスファルトプライマー

asphalt primer アスファルトを揮発性溶剤に溶解したもの。黒褐色で低粘度の液状を呈しており、コンクリートとアスファルト防水の下塗に用いられ、接着力を高める。

アスファルトブロック

asphalt block アスファルトモルタルを長方体、立方体に成形したもの。黒色のほか黒緑色、黒褐色のものがある。吸水性が少なく、耐薬品性、耐摩耗性にす

ぐれている。歩道、車道、化学工場などの耐薬品床に用いられる。

アスファルトベイント

asphalt varnish, asphalt paint アスファルトを溶剤に溶解した塗料。黒色をそのまま利用したものや顔料などを加えて着色したものがある。油ワニスに溶解したものを黒ワニスと呼ぶ。耐酸性、耐食性、防錆性、防水性に富む。

アスファルト防水(——ぼうすい)

asphalt waterproof メンブレン防水ともいう。アスファルト、アスファルトフェルト、アスファルトルーフィングなどを数層重ね防水する工法。

アスファルトマカダム

asphalt macadam アスファルト道的一种。あらかじめ碎石を敷いて転圧し、その上にアスファルトを浸透させる。これを繰り返して行ない、表面に細かい碎石を散布し転圧して仕上げる。

アスファルトマスチック

mastic asphalt (asphalt mastic) アスファルトに砂などを混ぜたモルタル。アスファルトよりも強度があり軟化しにくく、床仕上や防水層として用いられる。

アスファルト目地板(——めじいた)

performed asphalt joint filler アスファルトに石粉、繊維、コルクなどを加熱混合してできた板状のもので目地に挿入する。

アスファルトモルタル

asphalt mortar アスファルトに砂、ろう石、石灰石、滑石などの粉末を加熱混合したもの。防湿性、保温性、耐摩耗性があり、耐酸性の骨材を用いたものは耐酸性がある。顔料により着色することができ、床仕上などに用いられる。

アスファルトルーフィング

self-finished bitumen felt, (米) asphalt-saturated and coated felt (asphalt roofing) アスファルトフェルトの両面にブローンアスファルトを浸透さ

せて表面に滑石粉、鈹石粉などを散布した。防水性が大きく防水工事に用いられる。ロール状としてある。JIS A 6006。

アスファルト煉瓦 (—れんが)

asphalt brick アスファルトモルタルでつくられた煉瓦。吸水性が少なく、耐薬品性、耐摩擦性があり、耐薬品床などに用いられる。

アスベスト

asbestos 石綿 (せきめん)

アスベストルーフینگ

asbestos roofing, self-finished bitumen asbestos felt, (米) asphalt-saturated and coated asbestos felt 石綿 (せきめん) ルーフینگともいう。石綿布、石綿紙にアスファルトを浸透または浸透後塗布してつくったアスファルトルーフینگ。

アセチルセルローズプラスチック

acetyl cellulose plastics セルローズからつくられる三酢酸エステルに、可塑剤と充填剤を加えて成形した熱可塑性プラスチック。

アセテート

acetate 酢酸セルローズをアセトンに溶かし紡糸した繊維。冷たく、すべすべしており、難燃性に弾性が少なく、厚い感じがする。絹織物の代用、各種繊維と混紡して用いる。

厚板 (あついた)

thick plate 厚さの大きい板。鋼材では厚さ 3 mm 以上、木材では厚さ 30 mm 以上 80 mm 未満で、幅が厚さの 3 倍以上、板ガラスでは 6 mm 以上のもの。

厚板ガラス (あついた—)

plate glass 板ガラスのうち板厚約 7 mm 以上のもの。製法には鋳造法、ロール法がある。薄板ガラス (普通板ガラス) とともに各種板状ガラスの素材となる。

圧延鋼材 (あつえんこうざい)

rolled steel 圧延形鋼 (あつえんかたこう) ともいう。ローラーにより種々の

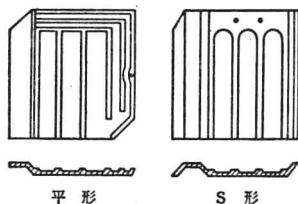
形に圧延加工された構造用鋼材。加工される鋼塊を高温にして圧延成形する方法 (熱間圧延加工) と、常温で圧延成形する方法 (冷間圧延加工) の 2 種がある。後者によって成形された形鋼は特に軽量形鋼と呼ばれる。また熱間圧延加工されたものは通常、一般構造用圧延鋼材ともいわれ、I 形鋼、H 形鋼、山形鋼、溝形鋼などの種類がある。JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)。

圧延板 (あつえんばん)

rolled plate 主に金属類を回転するローラーの間に数回通すことにより、展延し、板状にしたもの。展延時の素材の温度により、熱間圧延板、冷間圧延板の 2 種がある。

厚形スレート (あつがた—)

pressed cement roof tile セメントモルタルでつくったかわら。成形の際、機械で圧縮成形してつくる。表のような形によって平形、S 形、和形、洋形がある。



種類		1 m ² 当りの敷き枚数	実備寸法 [mm]
平形	1 種	11 枚	303×303
	2 種	13	270×288
S 形	1 種	11	303×303
	2 種	10	303×320
和形	1 種	15	243以上×258以上
	2 種	17	223以上×253以上
洋形		12	364×227

る。他に平がわらのほか軒先用, けらば用の特殊なものもある。JIS A 5402.

圧縮材 (あしゅくざい)

compression member 材軸方向に圧縮力を受ける部材。柱などがそれである。細長比により短柱と長柱に区別される。中心圧縮力では短柱は曲がることなく単純な圧縮破壊をするが、長柱では曲がってから (座屈) 破壊する。

圧縮材の有効断面積 (あしゅくざい——ゆうこうだんめんせき)

effective sectional area of compression member 設計上の部材断面の有効な部分の面積。鉄骨の圧縮部材で材厚が薄すぎるとその部分で局部座屈を生ずる危険があるので、断面設計に当りこの部分を無視し、圧縮力に対して部材の有効な部分の断面積。

圧縮試験 (あしゅくしけん)

compression test 材料に圧縮力を加えその挙動を知るための試験。圧縮強度、降伏点、圧力とひずみなどを求める。材料により試験体および試験方法は異なるが、圧縮力の加え方により中心圧縮、偏心圧縮の二つに分けられる。また圧縮力の分布状態により全面圧縮・部分圧縮試験、および圧縮方向の数により一軸圧縮・二軸圧縮・三軸圧縮試験に分類できる。

圧縮鉄筋 (あしゅくてっきん)

compression bar of reinforced concrete 圧縮筋ともいう。鉄筋コンクリート部材のうち曲げを受ける部分において圧縮側に配列された主筋。

圧縮歪 (あしゅくひずみ)

compressive strain 圧縮変形ともいう。圧縮力によって座屈を伴わないで生ずる変形。材の単位長さ当りの縮み量を圧縮歪度と呼び ϵ_c で表わし、材の元の長さを l , 縮み量を Δl とすると次のような関係がある。 $\epsilon_c = \Delta l / l$ 。また圧縮力を P , 材の断面積を A , ヤング係数を E

とすると次のような関係がある。

$$\epsilon_c = P / (A \cdot E)$$

アッシュコンクリート

ash concrete シンダーコンクリートともいう。石炭殻を骨材として使用した軽量コンクリート。

圧接 (あっせつ)

pressure welding 主として鉄筋の接合に用いる方法。接合する鉄筋の端部を溶融点近くまで加熱し、圧力を加えて接合する方法。加熱方法により、ガス圧接法 (ガス炎による加熱) と電気圧接法 (通電による加熱) の2種がある。

アッターベルグ限界 (——げんかい)

Atterberg limits コンシステンシー限界ともいう。細粒土は含水比の多いときの液状から水分の喪失とともに塑性状、半固体状、固体状へと変化する。これら三つの状態それぞれ限界含水比を液状限界、塑性限界、収縮限界と称し、この3限界を総じてアッターベルグ限界という。

厚肉引抜鋼管 (あつにくひきぬきこうかん)

solid-drawn steel pipe ㊦引抜鋼管 (ひきぬきこうかん)

圧入ジベル (あつにゅう——)

press-in dowel, press-in connector, spike dowel 打込み、圧入などにより木材中に押し込んで使用するジベル。初期剛性が大きく、粘り強いが、木材の収縮により耐力が低下することがある。ジベルびょう、ブルドックジベル、O式ジベルなどがある。

檣、反木 (あて)

compression wood 陽疾 (ようしつ) ともいう。関東地方では「あぜ」ともいう。針葉樹材において過度に繊維方向の収縮がいちじるしい材。普通の材より色が濃く、繊維素が少なく、リグニンが多い。堅硬であるがもろく狂いやすいのでかんな削りが困難であり、工作には不向。

当てとろ (あ——)

dabbed mortar 板石などを張り付け

るとき裏面に塗り付ける団子状のモルタル。部分的接着、下地面とのスペーサーとして用いられる。

アートガラス

art glass ガラスれんがの一種。彫刻したものや、つや消、生地そのままのものなどがある。照明装置用、建築装飾用に使用される。

アートブリック

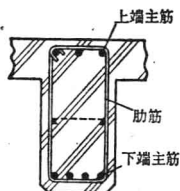
クリスタルガラスを用いて不規則な形態に仕上げたブロック。性質はクリスタルブロックに同じ。建築の内外壁用として石材同様の施工により使用される。

アートフロアー

合成樹脂系左官材の一種。商品名。成分には酢酸ビニル、合成ゴム、アランダム、珪砂、コルク、セメントを含み、難燃性、耐油性、耐アルカリ性、耐摩耗性にすぐれる。施工が容易で色調も自由にでき、つぎ目のない床仕上が可能。通常3層仕上で全厚は3.5mm程度。

肋筋 (あばらきん)

stirrup 鉄筋コンクリート造のはりの軸方向に通る主筋を「たが」のように巻いた鉄筋。はりのせん断力に対する補強を主目的として入れられるが、施工上主筋を固定する役目もある。



アピトン

apitong ふたばがき科に属する広葉樹。フィリピン、マラヤ、インドネシアなどに産する。一般にいう南洋材で、床板、羽目板、家具などに用いられる。ラワンより赤味が少し硬い。気乾比重0.7~0.8。

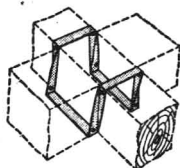
アブセット突合せ溶接 (—つぎあわ—

ようせつ)

upset butt welding スローバット溶接ともいう。電気抵抗溶接の一種。一般に金属線や丸鋼の溶接に使われ、溶接部分を突き合わせて接合部に電流を流し、電気抵抗熱で加熱し強圧を加えて接合する溶接法。

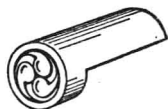
鍍金物 (あぶみかなもの)

strap 腰掛金物 (こしかけかなもの)ともいう。木構造の仕口の緊結用金物の一種。主材となる部材に鍍のようにまたがせて固定し、これに取り付く部材の端部を緊結する金物。



鍍瓦 (あぶみがわら)

端丸瓦 (はしまるがわら) ともいう。屋根瓦の一種で、軒先に用いられる鍍形 (えびがわら) の瓦。口端部分の模様により巴瓦 (ともえがわら)、菊丸瓦 (きくまるがわら) などがある。



油 (あぶら)

oil 水に溶けず粘性を有する物質。一般に常温で液体であり、水よりも軽い。動物系、植物系、石油系、また芳香性油系など種類も多い。

油障子 (あぶらしょうじ)

雨障子 (あましようじ) ともいう。家の出入口や窓など戸外に面する障子で防水を目的にその障子紙に油を塗ったもの。通常は腰高障子。

油蒔 (あぶらずさ)

蒔の一種。なたね油などをしぼるときに使用される麻袋の廃品を細かく切断し、はくして蒔としたもの。油がしみ込んでいるため防水効果があり、屋根しっくいや外壁塗に用いられる。

油ペイント (あぶら——)

oil paint ㊦ 油性ペイント (ゆせい——)

油ワニス (あぶら——)

oil varnish ㊦ 油性ワニス (ゆせい——)

あべまき

「こるくぬぎ」ともいう。檜 (なら) 類に属する広葉樹。中国、四国、九州地方など温暖地に産する。材は薪炭用に、樹皮はコルクの原料となる。

亜麻 (あま)

flax 亜麻科の一年生植物。繊維から糸、織物をつくる。種子からは亜麻仁油 (あまにゆ) がつくられる。中央アジアが原産地。

天川漆喰 (あまかわしっくい)

たたきなどに用いられる水硬性漆喰の一種。長崎地方に産する安山岩質の風化土を原料とし、これを石炭と水で練ったものの。

雨障子 (あましょうじ)

㊦ 油障子 (あぶらしょうじ)

雨戸回し金物 (あまどまわ——かなもの)

回り縁に建て付けた雨戸を送る場合、出隅部の敷居とかもいに雨戸の回転を容易にするために取り付けられる金物。

亜麻仁油 (あまにゆ)

linseed oil 乾性油の一種。亜麻の種子を圧さくして得た油で、乾燥が早く、乾燥すると弾力性、耐水性のある半透明膜を形成する。塗料用として最適であり、油性ペイント、エナメルペイント、油ワニスなどの原料に、またボイル油としても多用される。

網入ガラス (あみいり——)

wired sheet glass 網入板ガラス (あ

みいりいた——) ともいう。板ガラス中に金属網を入れたガラス。ガラス表面は、型板、磨き、あるいは透明、不透明など自由に仕上げることができる。防火用、盗難防止用として広く用いられている。JIS R 3204。

網状ルーフィング (あみじょう——)

reticulated roofing sheet 目の粗い綿布、麻布を原料としてアスファルトを施したもの。特殊なものとしてガラス綿布を下地とした製品および石綿布、銅網フェルト類がある。防水層の中間部に補強のために用いられる。JIS A 6012 (網状アスファルトルーフィング)。

アミノ樹脂 (——じゅし)

amino aldehyde resin アミノ化合物とアルデヒド化合物の縮合樹脂の総称。尿素樹脂、チオ尿素樹脂、メラミン樹脂などがある。

網篩 (あみふるい)

wire sieve 針金で編んだ網で、粒子の大きさをふるい分ける道具。孔は通常角形で、篩分け試験用篩は、JIS の規格に適合する標準網篩を用いる。JIS Z 8801 (標準ふるい)。

アミラン

人造繊維のうちの有機質繊維 (化学繊維)。単量体から合成によってつくられたポリアミド系繊維。非延焼性、耐酸性、耐アルカリ性にすぐれる。

アムスラー型万能試験機 (——がたばんのうしけんき)

Amsler type universal testing machine スイスのアムスラー社製のものが一般に広く用いられるためつけられた名称の万能試験機。油圧によりラムを押し出す機構および振子式荷重測定機構を有し、圧縮・引張り・曲げの試験ができる。

アメリカ材料試験協会 (——ざいりょうしけんきょうかい)

American Society for Testing and Materials A.S.T.M. と略す。1898

年創設されたアメリカの材料および材料試験に関する規格を定める機関。

綾織（あやおり）

斜紋織（しゃもんおり）ともいう。織物の組織には平織、綾織、縐子織（しゅすおり）の3種の基本形があり、その一つ、2本以上の縦糸または横糸が連続して交錯したもの。平織より地質が柔軟で光沢がある。ギャバジン、サージなどがある。

歩み板（あゆ——いた）

歩み、投渡し板、渡し板、打橋ともいう。足場に架け、作業床として敷いた板。

荒石（あらいし）

rubble 野石（のいし）ともいう。切り出したままの石材。

洗い砂利（あら——じゃり）

washed gravel 砂利採取現場でふるい分けし、水洗いした砂利。ふるい分けだけしたものは不洗い砂利と呼ばれる。仕上げなどに用いられる。

荒板（あらいた）

rough lumber 野板（のいた）ともいう。丸太を製材したままの板。

洗出し仕上（あらいだ——しあげ）

scrubbed finish, exposed-aggregate finish コンクリートやモルタルの壁や床仕上的一种。あらかじめ型わくに凝結遅延材を塗布しておき、脱型後完全に硬化する前に、表面をワイヤブラシなどで散水しながらこすり、表面のペースト分あるいはモルタル分を取り、骨材を露出させた仕上げ。

洗出し用丸砂利（あらいだ——ようまるじゃり）

主として屋外壁面の表面粗面仕上に用いられる砂利。上塗り未乾燥状態で噴霧器で表面のセメント汁を水で洗い均等に露出させた石をいい、青石、赤石、那智、大磯、青砂利などがある。

洗い丸太（あら——まるた）

㊦ 磨き丸太（みが——まるた）

荒壁（あらかべ）

土壁の一種。荒土にわらすさを混ぜ水で練り上げたものを、下地の竹こまいに塗り付けて仕上げる壁。通常他の土壁の下地形成を目的とした下塗に用いられることが多く、土壁の下塗、農家の家畜小屋、物置などの壁に使用される。

荒壁土（あらかべつち）

clay 荒土（あらつち）ともいう。こま壁の下塗に用いる粘土質の土。粘土分をそれぞれ50% ぐらい含有しており、15 mm 程度のふるいにかけて使用する。

荒木（あらき）

切ったままの木材でまだかんなをかけてないもの。

荒木田土（あらきだつち）

荒壁土の一種。江戸時代に荒川沿岸の新田（荒木田）に産したことに由来する。

荒切り（あらぎ——）

㊦ 鑿切り（のみぎ——）

荒削り（あらけず——）

rough planing 木材の表面をかんなで軽く削ること。

荒仕上鉋、粗仕子（あらしこ）

jack plane 木材表面を荒削りするかん。

荒苧（あらずさ）

㊦ 荒寸莎（あらつた）

荒摺り（あらず——）

rough grind 粗磨き（そみがき）ともいう。石材表面の研磨仕上的一种。のこ引きされた石材を回転盤上に敷いた鉄砂またはカーボナダムでみがくこと。

荒寸莎（あらつた）

荒苧（あらずさ）ともいう。5 cm 程度に切って、荒壁土に混ぜて用いるわら。

荒塗（あらぬり）

こま壁の下塗りのこと。

荒鑿切り（あらのみぎ——）

石面加工法的一种。切り出した石材の表面を石工用鑿で仕上げることで、荒鑿切り、中鑿切り、上鑿切りの3段階で仕上げるのが一般的。